令和7年度保育の質の自己評価ガイドラインチェックリスト

保育所保育指針には「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と、規定されています

出石愛育園では、この規定を踏まえ、日頃から保育に従事している保育士自らが保育の内容や園運営に対する自己評価を実施しました。

今回の自己評価は、職員自らが評価を通して、保育の質の向上あるいは組織の運営に関する問題や課題点等を探り、次年度の保育計画や保育内容の向上、改善に努めると共に保育所としての専門性、組織力の向上に結びつけて行くことを狙いとしています。

評価の基準は以下のとおり、この１年間の保育を振り返り自らの実践内容や組織のあり方等を評価してみました。

園では、評価結果を次年度以降の人材育成や組織運営等に反映させ、より良い保育、保護者の皆様に信頼される園づくりを目指していきたいと思います。

【評価基準】

A.理解し十分に取り組んでいる　**B.**おおむね取り組めている　**C.**理解が不足し十分取り組んでいない

（１）子どもの権利

人権保育について年間計画を立て研修を実施している。また適切な保育についてもセルフチェックをおこない子どもの人権について理解を深めた。一人ひとりの子どもの行動や欲求に対する対応の仕方、子どもが理解できるような年齢に応じた言葉の選び方関わり方をさらに考えていきたい。

	A	B	C
①子どもの権利を守る立場を自覚し保育の中で十分に配慮している。	75%	25%	0%
②一人ひとりの子どもの行動や欲求に対して穏やかに対応し、子どもが理解出来るような年齢に応じたわかりやすい言葉を選び応答的に関わっている。	81%	19%	0%
③むやみな制止や禁止、子どもの言葉や言動を無視する、不必要に大きい声否定的・抑圧的・管理的な対応などをしていない。	69%	31%	0%

（２）職員に求められる資質

年間計画を立て職員研修を行い、保育の質の向上に取り組んできた。

子ども達の成長の様子の共通理解など、子どもを真ん中においた対話をドキュメンテーションなどを活用しながら、保育の質の向上の基盤として「職員間の協働性の強化」を進めていきたい。

①子どもと関わることを喜び、子どもと一緒に楽しむことが出来、積極的に保育に従事している。	100%	0	0%
②保護者の気持ちに寄り添い、保護者と共に子どもの成長を喜び、子どもの発達を支援している。	94%	6%	0%
③職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性を高めようと行動している。	44%	56%	0%

（3）保育環境

「環境を通しておこなう保育については、おさかおのこども園との研修を通し課題や共通認識などを深めていった。物理的スペースの課題や配置・空間・継続性について子ども達の変化のプロセスを通して子どもも大人も楽しめる環境づくりの共有を図りながら改善していきたい。

①友達と好きなことをして落ち着いて遊べる場所や一人でじっくりと楽しむことができる場所、体や心をゆっくりと休めたりくつろげる空間がある。	69%	31%	0%
②子どもの生活空間において遊具の素材・配置などの工夫をしている。	56%	44%	0%
③身近な自然や素材を生かした保育環境を整え、様々な遊びを豊かに展開し保育している。	62%	38%	0%

（4）保育内容

ア.乳児保育（1歳未満）

乳児にとって生命の保持及び情緒の安定という養護の側面が特に重要となる。

一人一人に寄り添った対応、関わりをさらに大切にしたいと考える。クラス内の職員で連携を取りながら、一人ひとりの欲求を満たし応答的に関われるようにしていきたい。

①乳児は疾病への抵抗力が弱く心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いので、一人ひとりの発育及び発達状態や健康状態について把握し、職員間で連携をとったり嘱託医との連携を図り、適切な対応を行っている。	62%	38%	0%
②泣く、笑うなどの表情の変化・発声・喃語・身体の動きなどで感情を表現しようとする意欲を積極的に受けとめ、表現豊かにやさしくかけたり、一人一人抱いて微笑みかけながら授乳をしたり関わっている。	75%	25%	0%

イ.1歳以上3歳未満児

自分の意志や欲求を出せるようになり色々なことが自分で出来るようになる時期である。

「自分でやりたい」という気持ちや願いを尊重し、見守りと小さな達成感を大切に生活の自立を支えていきたい。

①子どもの不安な感情の表出については、受け止め、そうした気持ちから立ち直る経験や感情のコントロールをすることへの気付きなどにつなげていけるように援助している。また友達との関わりを丁寧に伝えている。	75%	25%	0%
②自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気付く時期であるため、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっている。	81%	19%	0%

ウ.3歳以上児

幼児期までに育ってほしい姿を念頭におきながら、子ども達の自発的な活動である遊びや生活の中で子ども一人ひとりが発達や特性に応じて自分らしさを発揮し行動できるように援助していきたい。

①幼児教育において育みたい資質・能力において、遊びや生活の様々な経験が相互に関連し合い積み重なっていくことに留意しながら、子どもの自発的な遊びを通して一人一人の発達の特性に応じて育っていくように環境を整えている。	75%	25%	0%
②集団生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育者等や他の子どもに認められる体験をし、自分の良さや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにしている。	81%	19%	0%

（5）食育

食べることは生きることの源であり、心と体の発達に密接に関係していることを理解し食育計画を立てて実施している。今後も更に保育士と調理師が連携・情報共有し一人ひとりの子ども達の食習慣の土台づくりに取り組んでいきたい。

①保育所における食事の提供ガイドラインをベースに、保育施設の食育に関する方針や目標が計画され、計画に基づき栄養士・給食調理員と保育者等が定期的に情報交換し、連携を図って食に関する取り組みを行っている。	63%	25%	12%
②無理やり食べさせたりせず、子どもの気持ちに寄り添いながら給食の介助をしている。	88%	12%	0%
③アレルギー対応については、職員間で子どもの現状を把握し、相互の共通理解と連携を図るようにしている。また、職員間で細心の注意を払いながら、他の子どもと一緒に楽しんで食育活動に参加できるように配慮している。	94%	6%	0%

（6）支援の必要な子どもの保育

一人ひとりの子どもの状態に応じた環境を設定し、専門機関と連携を取りながら適切な援助や配慮を行っている。更に園内で情報共有をしながら、園全体で支援に関する知識や配慮等の方法を理解と認識を深め、対応出来るように取り組んでいきたい。

①子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	88%	12%	0%
②保護者の悩みに寄り添い、子どもの育ちや保護者の置かれた状況に関して共に考える姿勢を持っている。	88%	12%	0%

（7）健康

保育士と看護師が連携をとりながら一人一人の健康状態を把握し、体調に合わせて機嫌よく過ごせるよう配慮している。園児一人ひとりが心身の健康と情緒の安定の下でのびのびと過ごせるように感染予防・保護者との情報共有を行いながら援助していきたい。

①子どもの入所入園前に既往歴及び予防接種等の把握を行っている。入所入園後も地域で流行している感染症の情報を適宜保護者と共有したり、必要に応じて予防接種の勧奨を行うなど健康増進に努めている。	88%	12%	0%
②子どもの健康状態を把握し、体調に合わせて過ごすことが出来るよう配慮している。子どもの日々の健康観察を行い、子どもの健康状態がいつも違う状況にある場合はその対応をするとともに、保護者に連絡をして対応の検討を行っている。	94%	6%	0%

（8）安全管理

安全対策のために必要なマニュアルを作成しそれを基に事故防止に努めている。
今後も園内の事故防止、事故や災害時に向けた訓練、職員の情報共有、体制づくりを整えていきたい。
また家庭や地域、関係機関とも一緒に取り組んでいきたい。

①事故（プール・水遊び・沐浴など含む）や災害、不審者対応などにおける安全確保や事故防止について、リスクや注意すべきことが整理され、対応マニュアルの作成や全職員に周知するための研修、発生時を想定した訓練等を行なっている。	88%	12%	0%
②災害時の保育体制、保護者との連絡体制及び円滑な保護者への引き渡し方法について整備し、保護者や職員に周知している。	94%	6%	0%
③その日の子どもの様子や活動内容における安全管理について、職員同士で事前の確認、下準備などを行うとともに、子どもの行動を予測し職員同士が声を掛け合いながら保育を実践している。	88%	12%	0%

（9）子育て支援

子どもの成長を保護者と共有出来るように送迎時における会話や連絡帳、ドキュメンテーション面談などを通して子ども達の育ちについて家庭と連携し支援を行っている。
今後も子ども達の成長を一緒に喜び合いながら、寄り添いながら支援出来る体制を整えていきたい。

①登降園時間の会話や連絡帳、活動の記録など日々のコミュニケーション、行事などあらゆる機会を通じて保育の意図、子どもの状況などを保護者と連絡を取り合っている。	81%	19%	0%
②育児不安などが見られる保護者に対し、保護者の思いや家族の状況、保育施設での子どもの様子（発達や行動特徴等）を踏まえ、援助の仕方を一緒に考える姿勢を持ち支援を行っている。	94%	6%	0%

（１０）運営体制

安心・安全な保育を行うためには安心・安全な職場環境が必要と考える。管理職との面談も行っているが、まだまだ意見交換・情報共有が不足している。職員一人ひとりが目標を持ち、前向きに業務に取り組めるよう職場環境や研修内容の改善に取り組んでいきたい。

①職員が安定して働き続けることが出来るよう、ワークライフバランスの実現や心身の健康管理の環境づくりに取り組んでいる。	13%	40%	47%
②職員が自らの目標に向かって取り組めるようキャリアパスが明確に示され、それに合わせた研修体制が整えられている。	29%	57%	14%

令和７年度　社会福祉法人愛育会

調理員自己評価表(%)

No.	内　　容	◎	○	△
（評価基準）・よくできている＝◎　・ほぼできている＝○　・努力が必要＝△				

基本理念と社会的責任

1	子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になるよう食育を行っている	33%	67%	0%
2	子ども・保護者の食をめぐる現状・課題について正しく理解している	33%	67%	0%

幼児教育施設において保育理念に基づいた「ふさわしい生活の場」とは何か、また保育士と食の課題をしっかり共有しながら取り組んでいく。

食事の提供に関する配慮事項

3	調理員が、子どもの食事中の巡回などで喫食状況を把握している	0%	67%	33%
4	特別な配慮が必要な子ども（アレルギーなど）の状況に合わせた食事を提供している。	100%	0%	0%

子どもの喫食状況を把握する中で、調理の形態、量など調理室内だけでは見えない状況を保育士と連携を取りながら一緒に考えていく。

計画・評価・育ちの見通し

5	保育の理念に基づいた保育課程や指導計画に「食育の計画」が位置づいている	33%	33%	33%

年度始めに「食育計画」を立案し、職員全体で計画に沿って取り組んでいく。

配慮が必要な園児への食育

6	特別な配慮が必要な子どもの状況に合わせた食事提供がされている	33%	67%	0%

全職員で家庭と園の様子や摂食状況について共有していく。

食育のねらいと内容

7	食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている	67%	33%	0%
8	食事を通して五感が豊かに育つような配慮がされている	33%	67%	0%

子ども達が視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚を通して食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味・関心が持てるように取り組んでいく。

保護者との連携

9	離乳食は、保護者、保育者と密に連携をとり、子どもの状況に配慮して提供している	67%	33%	0%
10	保育者、保護者と連携し、個々の食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	67%	33%	0%
健康支援				
11	展示食、イロドリ、給食だよりなどによって、年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている	67%	33%	0%

保護者と連携を密に取り、子どもの発達や年齢、個々の状況に合わせた食事提供を行っていく。

衛生管理

12	施設独自で厨房に関するマニュアルが整備されており、十分に理解し、活用されている	67%	33%	0%
13	作業前に調理台や冷蔵庫の取っ手などを次亜塩素酸ナトリウムやアルコールなどで入念に清掃している	67%	33%	0%
安全管理				
14	ヒヤリハットを常に意識して行動し、定期的に報告、共有をしている	67%	33%	0%
15	食物アレルギー児への対応として、調理室内で原因食材の混入が起こらないようルールを設定し、職員に周知している	67%	33%	0%

衛生管理・安全管理については、定期的な業者による点検と園のチェックリストを基に安心・安全な食の提供に努めていく。

災害対策

16	消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	33%	67%	0%
17	ライフラインが絶たれた状況下での食事の提供に備え、非常用食品・用品を備蓄している	67%	33%	0%

災害対策においては、職員の訓練を通し知識の習得を行っていく。また備蓄に関しては定期的に今後も見直しを行っていく。

家庭との連携

18	園で初めて食べる食材がないよう、家庭と連携しながら進めている	67%	33%	0%
19	レシピや調理方法を知らせる等、保護者が家庭でもできるような具体的な情報提供を共有している	67%	33%	0%

乳児の離乳食等に使用する未接種食材については、今後も保護者・調理師・保育士と連携をしっかりと行い対応していく。

職員の資質向上

20	定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育、食育に関する知識を習得するよう努めている	33%	67%	0%
21	保育所の自己評価の結果を公表するよう努めなければならないとされていることを理解している	67%	33%	0%

専門的な知識の習得等については、抽出された課題をもとに研修などを通し資質向上出来るように努めていく。

（記入の仕方）・よくできている＝◎　・ほぼできている＝○　・努力が必要＝△